

(様式1) 実践事例

学校名	福島県伊達市立伊達中学校	校長名	鈴木 昭夫		
住所	福島県伊達市箱崎字沖110番地	生徒数	373人	学級数	14
TEL	024-583-3025	ホームページアドレス	http://www.date-j.fks.ed.jp/		

**生徒一人一人に確かな学力の定着を図るために  
～英語科におけるT・Tの指導を通して～**

- 1 少人数指導（ティーム・ティーチング）の方針・計画
  - (1) 英語科において、ALTとのT・Tとは別に日本人教師2名によるT・Tを計画的に行う。
  - (2) 生徒の実態を的確に捉え、英語科担当者と学年担当者（英語科以外）の特性を生かし、確かな学力の定着を図るための指導内容・方法等のあり方を追究する。
  - (3) 授業における教師の役割や生徒との関わりを明確にししながら、授業を進める。
  - (4) グループ学習における巡回指導の役割分担を工夫するとともに、課題解決学習が効果的に進められるよう多様なグループの形態と指導の在り方を追究する。

2 実践の概要

- (1) 生徒一人一人の実態を把握するとともに、打合せの時間を確保し、共通理解を図り、工夫・改善しながら指導を進める。特に、基礎的基本的な内容の定着やアンダーアチーバーの生徒への個別指導を重視して進める。
- (2) ねらいや手立て、指導内容・指導方法等との関連から、T1とT2の役割分担を明確にし、特に、グループ学習時にどこまで指導するかについて共通理解を図る。
- (3) T1、T2とも自信や自己肯定感をもたせるアドバイスに努め、生徒一人一人の意欲を刺激する個別指導に心掛ける。
- (4) 生徒のつぶやきを拾い上げたり、机間指導で生徒の考えをつかみ、意図的な指名を行ったり、授業の中での情報共有をT・T間で緊密に行うようにする。



実践例 課題解決のための学習形態の工夫

～英語で道案内しよう(2年)～

海外からの観光客に、英語で目的地への交通手段を教  
えてあげよう。

- ① T1とT2で実際に演示することで、課題を理解させる。
- ② ペアを作り、目的地や交通手段が書かれたカードを引かせ、それに基づいて会話文を作らせる。
- ③ 実際にロールプレイングをさせる。
- ④ 同じカードを選んだペア同士が集まり、お互いに発表し合うことで、自分の会話文にない表現や参考にしたかった表現をメモさせ表現の幅を広げさせる。
- ⑤ グループの代表に全体で発表させる。

※実際に演示をすることで課題解決の具体的な目標をもたせる。  
※相談がしやすいようにペアを自由に作らせる。  
※つまづいているペアを重点的にT1、T2で分担して指導する。  
※上位の生徒には、カードを引いて、即興で会話をさせてみる。

3 実践の成果と課題

- T1、T2の役割分担を明確にし、基礎的基本的な内容の定着や下位生徒への個別指導を重視して進めることで学力の向上につながるとともに、課題に対する生徒の意欲が高まった。
- 教師個々の特性が相乗効果をもたらし、学習効果を高めているとともに、生徒はT・Tによる指導を好意的に受け入れている。
- 打合せの時間を時間割に固定するなど十分確保し、T1、T2がさらに共通理解を図り、習熟度に応じた指導について態勢を整えていく必要がある。